

## 試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：房総沿岸に秋季に来遊するカタクチイワシ未成魚の漁況予測の試み			
<p>[要約] 秋季に房総沿岸に来遊するカタクチイワシ未成魚(銘柄「ジャミセグロ」)の来遊量について、その予測手法を検討した。その結果、10月の飯岡、片貝、大原における水揚量は、9月の飯岡のしらうお船曳網漁業で混獲されるカタクチイワシ(銘柄「カエリ」)の量と、また11月の水揚量は9月の愛知・静岡2県のシラス水揚量と正の相関が認められた(<math>p=0.05</math>)。また、黒潮の離接岸による影響も示唆された。</p>			
キーワード：カタクチイワシ，未成魚，来遊量予測			
実施機関名主      査    水産総合研究センター      資源研究室 実施期間        2004年度～2006年度			

### [ 目的及び背景 ]

千葉県におけるカタクチイワシの漁獲量は、1990年から増加し始め、2004年の県内主要5港(銚子、飯岡、片貝、大原、鴨川)の合計は199千トンに達し、1972年以降最高となった。一方で、秋季に犬吠埼～九十九里沿岸に来遊する被鱗体長6cm～8cm程度のカタクチイワシ未成魚(以下「ジャミセグロ」という)は、1990年代後半から減少傾向となり、2004年には1992年以降最低の漁獲量となった。ジャミセグロは、主に煮干し等の食品の原料となるために単価も高い。このことから、漁業者や加工業者のジャミセグロの来遊に対する関心は高く、予測手法の開発が必要となっている。

### [ 成果内容 ]

1. 10月に飯岡、片貝、大原の3港に水揚げされるジャミセグロの量は、9月に飯岡のしらうお船曳網漁業で混獲されるカエリの量と正の相関が認められた( $p=0.05$ )。
2. 11月に水揚げされるジャミセグロの量は、9月に愛知・静岡の2県で水揚げされるシラスの量と正の相関が認められた( $p=0.05$ )。
3. それぞれの関係から得られた直線回帰式による推定値と実際の水揚量との残差と黒潮の離岸距離の関係を単回帰で検討したところ、10月の水揚量は、9月前半に犬吠埼SEから黒潮が離岸すると水揚量が多くなる傾向があった。11月の水揚量は、9月後半に野島埼SEで黒潮が離岸すると水揚量が少なくなる傾向があった。
4. 海洋環境による影響は明瞭なものではなく、さらに他の要因を検討するとともに、来遊するジャミセグロの発生時期や海域を明らかにしていくことが必要である。

### [ 留意事項 ]

### [ 普及対象地域 ]

### [ 行政上の措置 ]

### [ 普及状況 ]

[ 成果の概要 ]

表1 10月・11月のジャミセグロ漁獲量(飯岡・片貝・大原)と8月・9月のカエリCPUE(飯岡)及び7月・8月・9月のシラス漁獲量(愛知・静岡県)とで単回帰分析を行ったときの相関係数。表中の \* は有意な関係があったことを示す。

	10月ジャミセグロ漁獲量	11月ジャミセグロ漁獲量
8月カエリCPUE	0.5528	-0.0337
9月カエリCPUE	0.6704	0.0644
7月シラス漁獲量	-0.3219	0.2400
8月シラス漁獲量	0.0527	-0.3328
9月シラス漁獲量	-0.0114	0.5855

表2 9月のカエリCPUEと10月のジャミセグロ漁獲量との回帰式, 9月のシラス漁獲量と11月のジャミセグロ漁獲量との回帰式からの残差と各海洋環境との指標と回帰分析を行ったときの相関係数。

	海面水温平年偏差			黒潮離岸距離平年偏差					
	犬吠埼沖	片貝沖	太東岬沖	犬吠埼SE		太東岬SE		野島埼SE	
				9月前半	9月後半	9月前半	9月後半	9月前半	9月後半
9月カエリと10月ジャミセグロの回帰式から得られた残差	-0.3019	-0.3630	-0.3613	0.4953	0.4044	0.4560	0.1872	0.0336	0.0058
9月シラスと11月ジャミセグロの回帰式から得られた残差	-0.1140	-0.0625	0.0366	0.0888	-0.1575	-0.0099	-0.2254	-0.4373	-0.5037

[ 発表及び関連文献 ]

中央ブロック資源・海洋研究会 口頭発表, 2005年  
黒潮の資源海洋研究 第7号, 2005年(印刷中)

[ その他 ]

漁況海況予報事業  
資源評価調査事業